

アヘン戦争とアロー号事件

このイギリスがアジアへと押し寄せて来ます。フランスからインドを奪い、ビルマを領土とし、セイロン、シंगाポール、マレーシアと奪っていきます。一八四〇年には世界で最も醜悪な戦争、アヘン戦争を起こします。これはインドやビルマでできたアヘンを清国に売り込むのです。アヘンは人体に非常な害を及ぼします。このアヘンを防ぐために清国はアヘンの密輸を禁止して、林則徐という気骨のある男を広東に送りまして、取り締まりをさせました。イギリスはアヘンの密輸船を拿捕したのが悪いといって戦争を始めたのです。この戦争によって清国は香港を譲り、上海や寧波を始め五つの港を開きました。それだけでは済みません。一八六五年には第二のアヘン戦争であるアロー号事件を起こします。その原因もアヘンの密貿易を防ごうとしたものですが、今度はイギリスとフランスが手を組んで天津と北京を攻めます。アロー号事件によって天津条約、のちに北京条約が結ばれ、これによってイギリスは九竜半島を奪い、フランスは清国からベトナムの宗主権を奪ってベトナムをラオスやカンボジアと共に植民地にするのです。さらに揚子江沿岸の都市を始め北京・天津・広東など大都市に治外法権が設けられ、裁判権は白人が握ってしまい、関税をなくし、いわゆる不平等条約を押しつけるのです。キリスト教の布教は自由にする。鉄道の敷設権を得る。つまり清国にとっては「生体解剖」です。清国を完全に半植民地化してしまふのです。

これに反発して起こったのが義和団事件です。義和団は、西洋の勢力であり侵略の手先であるキリスト教会を破壊して、元の清国に復元しなければならぬという運動に端を発しています。山東省に火を發し、北京に波及して、八カ国の大公使館を囲みます。この時の総大将は西太后という女性であります。この運動を押しやるどころか、これを煽り、八カ国に対して宣戦布告をしました。明治三十三年（一九〇〇年）のことであります。